

2012年度 春季 JIP 報告書

国立屏東商業技術学院

外国語学部日本語専攻4年 前田留果

外国語学部日本語専攻4年 孔蕙英

言語教育研究科1年 金添

実習場所	台湾南部に位置する屏東北西部にある『国立屏東商業技術学院』
実習期間	2013年2月25日（月）～2013年3月21日（木）の25日間 滞在期間：2013年2月24日～2013年3月22日
実習内容	オリエンテーション：50分×2コマ フィードバック：50分×2コマ サバイバル中国語：50分×4コマ 授業見学（校外）：50分×9コマ 授業見学（校内）：50分×46コマ 実.....習：50分×9コマ 合 計： 72コマ
費用*	関空⇄台北 Jetstar（航空券代、空港税、サーチャージ含） 30,823円 新幹線（高鉄）台北⇄左営駅（高雄）往復 約6,000円 生活費（食費、雑費、旅行等） 約60,000円から 宿泊費：女子寮無料（大学内）

*今回は全て実費。2013年度から国際交流基金の資金援助が得られることになった。

I 台湾での日本語

台湾はびっくりするほど日本に関するファッションや音楽、TVゲーム、ドラマ、アニメなどが流行っている。日本語も生活に密着しており、日本統治時代から台湾語や先住民の言葉の中に残る日本語（例：おじさん、おばさんなど）が日常化し、またテレビ（緯来日本台・國興衛視・JET TV）も日本語で放送している。

II 実習大学



実習大学は台湾の屏東市にある屏東商業技術学院である。応用日本語学部の1年生60名が実習の対象だった。1年生の日本語の授業で使用する教材は『みんなの日本語』中国語バージョンの『大家的日語』4冊である。三人の教師でチームティーチングをし、文型・会話・聴解・発音の4つの科目をそれぞれ分けて授業を担当する。

実習の間、1年生の授業だけを集中的に担当したが、希望を言えば、2年生から4年生の実習や見学も可能である。

III 実習内容

1、一回目実習内容

科目名：日語会話（二）

対象：Aクラス30人、Bクラス30人

指導教官：劉秋燕 先生

授業時間：50分×1コマ 4限（11：10～12：00）

50分×1コマ 6限（14：20～15：10）

実習日：3月7日

実習箇所：『大家的日語』第21、22課の会話復習

使用教材：PPT、絵カード

注意点：普通形の使い方

反省点：想定より答えがはやく出てしまって、少しあせった。



(孔蕙英)



(金添)



(前田留果)

2、二回目実習内容

科目名：日語聴力練習

対象：一年生 60人

指導教官：劉秋燕 先生

授業時間：50分×1コマ 4限 (11:10~12:00)

実習日：3月15日

実習箇所：『大家的日語』第21、22課の文法が入る聴解練習

使用教材：ワークシート

注意点：メモの取り方、名詞修飾、~と思う。

反省点：名詞修飾問題の絵が少し曖昧だった。

麗澤大学の実習生4人にも協力していただいたので、スムーズに進み、助かりました。

3、三回目実習内容

科目名：日語 (二)

対象：一年生 60人

指導教官：李欣怡 先生

授業時間：50分×2コマ 7限 (15:20~16:10) 8限 (16:20~17:10)

実習日：3月20日

実習箇所：『大家的日語』第25課「~たら」「~ても」

V+たら→金添

い形容詞+たら→前田留果

な形容詞+たら→孔蕙英

V+ても→孔蕙英

い形容詞→前田留果

な形容詞→金添

使用教材：PPT

注意点：声の大きさ（60人のクラスなので、一番後ろの席まで届くように）、指示文の分かりやすさ。

反省点：「～たら」に二つ意味があり、ちゃんと説明ができるかどうか心配で説明を避けてしまった。もう少しわかりやすい例を考え、もう少し丁寧に教えられたらよかった。



(金添)

(孔蕙英)

(前田留果)

4、四回目実習内容

科目名：日語会話（二）

対象：Aクラス 30人、Bクラス 30人

指導教官：劉秋燕 先生

授業時間：50分×2コマ 3限（10：00～11：00）4限（11：10～12：00）

50分×2コマ 5限（13：20～14：10）6限（14：20～15：10）

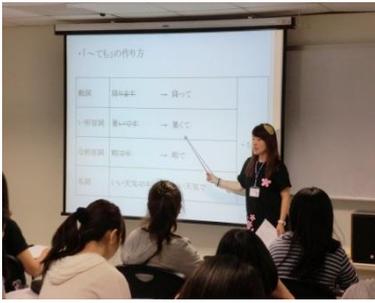
実習日：3月21日

実習箇所：『大家的日語』第25課の会話復習

使用教材：PPT、ワークシート

注意点：「～たら」「～ても」の使い方

反省点：指示が少し曖昧だった。



(孔蕙英)



(金添)



(前田留果)

IV 学内での講義

- ・ オリエンテーション (実習予定の説明と質問と実習内容リクエスト) 50分×2コマ
- ・ 特別講義、「台湾での日本語教育の現状とこれから」 石川清彦 講師
- ・ 「サバイバル中国語」 張月環 応用日語系主任 50分×4コマ

(中国語の授業が日本人実習生向けに開講されていた。発音を中心に学んだ。留学生は自由参加)

V 日本語教育現場の学校外の見学

- ・ 国立屏東女子中学 50分×2コマ分

屏東女子中学校では学生たちの会話相手になった。

使用教材は日本語能力試験の N4 のレベルだと思う。絵も文字も大きくて、読みやすかった。まだ自分の名前がはっきり言えない学生が多かったが、頑張って自己紹介から始め、星座や血液型などの話もできて、楽しい時間を過ごした。絵が得意な学生に似顔絵までも書いてもらった。「ようこそ！」と書いてあり、本当に感激し嬉しかった。



・ 空中大学（放送大学） 50分×2コマ分

空中大学は高雄にある。日本の放送大学に相当し、台湾人老若男女が生涯教育、仕事帰りの学習や趣味などの目的で学習している。50代のおじさん・おばさんも多く学習しており、私たちは受講生の会話の相手になり、受講生はかなり気さくに話しかけてくれた。日常会話は教科書より盛り上がった。最初、会話時間は20分間の設定でまったく足りなくて、10分延長してくれた。また、受講生の学習意欲はかなり高く、6年目の受講だというおばさんもいた。



・ 竹田駅池上文庫・二峰圳 50分×4コマ分

池上文庫に着いたとたん、真っ先に目に入ったのは日本の国旗だった。大量の日本語の本が池上文庫の中に収められていた。理事長と先生方は流暢な日本語であいさつをされた。池上博士や日本人及び地方有志からの寄贈書は文庫へ納められ、郷民に愛読されている。また、最近、文庫では読書会が開かれ、周辺の地域からお年寄りや近隣の大学の日本語を勉強する学生たちにも使われるようになった。



その後、日本人の鳥居信平氏が設計した二峰圳ダムに行った。地下二階ほどの深さで、

金属の梯子で降りないといけない。コウモリがあまりにも多すぎて、5メートルぐらいしか進めなかった。少し怖かったが、一生に一度の貴重な体験だと思う。二峰圳へ行くことができて、本当によかったと思う。



(二峰圳)



(原住民村)



(原住民村)

・ 屏東千葉英日語幼稚園 50分×2 コマ分

園児の日本語のレベルが高かった。何の抵抗もなく普通に日本語で話している。園児の日本語レベルに驚いたが、それだけでなく千葉幼稚園の設備にもびっくりした。教具はもちろん、一階は図書コーナーが設置されていて、日本語のマンガから小説まで、そろっていた。また、週一回の発表会があって、成績が良かった園児は園長先生のVIPルームに招待

され、好きなカップを選んで、お茶などを飲むことができる。園児皆 VIP ルームに招待されるというちょっとしたイベントで、園児の勉強意欲が高まることが期待されるだろう。



VI 台湾生活

1、学生宿舎

女子寮は学内にあり、第1寮と第2寮に分かれていて実習生は無料で宿泊できる。女子寮は4人部屋で、基本的には応用日本語学部の学生がいる部屋に配属されるが、寮の都合により、他の学部生が多い部屋に配属されることもある。



2、学生との交流・旅行

かなり頻繁に交流があった。授業が終わったら、いつも学生たちに「ご飯にいきませんか」と誘われる。応用日本語学部学生主催の歓迎会・送別会も講堂（活動センター）で行

われた。特に実習の準備で大変だということも感じず、毎週末の土日、学生たちと観光に行った。



(歓迎会)



(送別会)

3、食事面

学生寮にはキッチンがないので、食事は学内の食堂か外食だった。学校のすぐ前にはセブンイレブンもあり、ランチ、夕食を食べる食堂もたくさんある。大学の前にある交差点を渡るとすぐなので、便利だった。値段も安く、飲み物は1,000ccで25~30円(90円程度)で、砂糖の甘さと氷の量など調節できる。食事は一食50円(150円)前後で、安い上におなかいっぱいになる。台湾料理は日本人・中国人・韓国人の口に合って、とにかくおいしいので、食べすぎないように。

また、給水機《水もお湯(100度)も出る》もあるため、自分の水筒を持っていけば便利だと思う。



(学食)



(食堂のお弁当)

4、衛生面

学内に数匹のワンちゃんがあっちこっちいるが、どの犬もおとなしく、放し飼いにされている。吠えられることはない。蚊も多いため痒みどめの薬を持参したほうがいい。また、バイクや車の排気ガスが気になるならば、マスクもあったほうがいい。現地ではマスクが必須アイテムであるため、デザインが優れている。

台湾は空港などを除いてはトイレットペーパーを便器に流さない。男女とも便器の隣に必ずある便器のゴミ箱に大小使用済みのペーパーを捨てる。ペーパーが備え付けられていない場合も多いので、常に持参したほうがいい。大学の売店で安く手に入れることができる。

5、交通面

台湾の学生はバイクでの移動が基本で、子供か年配の方以外は自転車に乗っている人をあまり見なかった。私たちの交通手段はほとんどバスだった。屏東駅まで現金（約 60 円）で払ってもいいし、バスカード（約 300 円）で払うと割引もあるし、重い小銭の悩みもなくなるので、お勧めする。

6、気候

天気は良好だった。夜一、二回雨が降ったが、朝になるとやんでいて。温度差があるので、日中は半袖で過ごしてもいいぐらい暑かったが、夜になると少し寒いので、薄い長袖や羽織るものがあれば十分だと思う。日本の春先より暖かいので、セーターやダウンジャケットなどは不要。27度くらいにもなるため、夏のように感じる時もあった。女子寮は冷暖房が完備されているため、温度調節をすれば、快適に過ごせる。教室にも冷暖房がある。

VII まとめ

台湾へ行ってこの一ヶ月間は多分、私の人生の中で一番充実した一ヶ月間だったと思います。先生方にいろんなことを教えていただいて、日本語の先生という職、またこれから先生になるには何が必要なのかを再考することができました。どうやって優しく説明ができるのか、どうやって学生と信頼関係を築くのかを今も考えています。

学生たちに色々なところへ連れて行ってもらって、いろんなことを見て、いろんな意見

を聞いて、大きく成長した自分を感じています。

日本語教育実習は留学生を受け入れる実習校が少なく、もし屏東商業技術学院の先生方にこのチャンスをいただければ、多分今の新しい私はいないと思います。また、チームティーチングに初めて触れて、少人数のクラスと違う大変さを実感しました。この度は色々な貴重な体験をさせていただき、また先生方のお教えに触れることができ、本当に幸せでした。心よりお礼申し上げます。(金添)

今回の日本語教育インターンシップで私たちは本当に貴重な経験をする事が出来ました。

現地での日本語教育を実際に見学することで、国立屏東商業技術学院独自のチームティーチングの仕組みや、先生方のチームワークと努力によってチームティーチングが成り立っていることが分かりました。

また、1クラス約 60 人という大人数の学生たちの前で教壇に立つということは今までやってきた模擬授業とは全く違い、感じたことのない緊張を味わったり、現地の先生方にアドバイスをいただき自分たちの改善点を見付けることが出来ました。

私は中国語も勉強しているので、学生たちとのコミュニケーションから語学の面でももっと学習して話せるようになりたいとも思いました。

このインターンシップは私にとって海外の日本語教育を見学する初めての機会でした。このような機会がなければ実際に海外の日本語教育を見ることはなかったと思います。今回のインターンシップでの経験は私たち日本語教師を志す者にとって、もっと日本語について勉強し、深く知りたいと思わせるものでした。

この経験を生かして、これからも努力していこうと思います。(前田留果)

日本語教育を専攻しながらも日本人ではないので海外の JIP に行くなど考えることもできませんでした。しかし、台湾の「国立屏東商業技術学院」は、私のような留学生の実習生も歓迎してくれる雄一の大学でした。

今回の体験で色々なことを学ぶことができました。その中で一番よかったのはチームティーチングの有り方についてです。チームティーチングと言っても実際は前の続きを担当する場合や先生それぞれが違うテキストを使って学習進行にずれのある場合が多いです。しかし、この学校では『みんなの日本語』を中心とし、常に先生の間で話し合いをするこ

とによって、各授業に足りなかった部分を次の授業で補修したり、確認したりすることができていました。本当に素晴らしいチームワークだと思います。初めは先生の仕事が多すぎて大変なように見えてましたが、どの先生も楽しんでいることが分かってさらに尊敬するようになりました。大変勉強になりました。

また、勉強だけでなく台湾の隅々まで体験することができて本当によかったです。単なる旅では味わえない、人とのつながりが感じられる旅行ができたのは、人生二度と体験できない4週間だったと思います。

今回の JIP に一緒にいた日本人の前田さん、中国人の金さん、韓国人の私、そして台湾人の日本語学習者、私たちは日本語で一つになり、日本語でお互いを理解することができました。日本語を勉強しなかったらこのような素敵な体験はできないでしょう。

この度、卒業を目前にしているにも関わらず、JIP に行かせてくださった先生方に心から感謝しております。また、未熟な私たちに1年生の授業を任せてくださった「国立屏東商業技術学院」の応用日本語学部の先生方に深くお礼申し上げます。(孔蕙英)